

## 勝連分屯地への地対艦ミサイル部隊配備の中止を求める申し入れ

2022年1月24日

改憲・戦争阻止！大行進

昨年末、自衛隊と米軍が、台湾有事を想定した新たな日米共同作戦計画の原案を策定していたことが報じられました。米海兵隊の新作戦構想「遠征前方基地作戦（EABO）」に基づいて、米海兵隊が南西諸島の島々に次々と攻撃用軍事拠点を置き、空母打撃群が展開できるように攻撃を続けること、そして自衛隊が輸送や弾薬の提供、燃料補給などの後方支援を担うことなどの作戦計画の存在が具体的に明らかになったのです。

昨年12月には陸自と海兵隊の共同実動訓練（レゾリュートドラゴン21）が行われ、自衛隊として初めて、海兵隊のEABOとの連携が目的に据えられました。訓練では、オスプレイによる日米隊員の輸送展開訓練や、陸自の地対艦誘導弾（SSM）と米軍の高機動ロケット砲システムHIMARS（ハイマース）を用いた対艦戦闘訓練などが実施されました。これは日米共同作戦計画を具体的に実戦する訓練として行われていたのです。

そして、1月7日の日米安全保障協議委員会（2プラス2）では、「緊急事態に関する共同計画作業についての確固とした進展を歓迎した」と確認されました。

奄美大島、宮古島に続く、石垣島、そして勝連分屯地への自衛隊ミサイル部隊配備は、こうした作戦計画の要をなす部隊、米日による対中国侵略戦争の侵略拠点として位置づけられているということです。昨年11月には、宮古島に地対艦・地対空ミサイルの弾薬搬入が強行されました。沖縄―南西諸島を、対中国侵略戦争の最前線のミサイル基地に一変させようとしているのです。断じて認めることはできません。

勝連分屯地には、2023年度をめどに地対艦ミサイル部隊180人規模の配備とともに、南西諸島の4つの地対艦ミサイル中隊を指揮統制する連隊本部を設置することも狙われています。勝連分屯地がミサイル基地の中心部隊になろうとしているのです。絶対に許すことはできません。

岸田政権はいま、改憲や敵基地攻撃能力保有を前面に掲げ、対中国侵略戦争へ向けて動き始めています。防衛費増額による大軍拡を進め、自衛隊を侵略軍隊へと大転換させようとしています。

自衛隊員は絶対に侵略の銃を握ってはならない！

岸田政権がやろうとしているのは、労働者からの搾取・収奪の限りを尽くし、大資本家の莫大な利潤の一方で極限的な格差・貧困をつくり出してきた資本主義的支配の延命のための戦争です。新自由主義の大崩壊、国内階級支配の破綻、世界支配の破産という絶望的危機に直面する米日の支配階級が、とりわけ世界支配の最大の破綻点である中国に対して、圧倒的軍事力でもって体制を転覆する侵略戦争へと踏み出そうとしているのです。何よりも、沖縄を丸ごと戦場にたたきこむような戦争をきっぱりと拒否しよう。全国全世界の労働者と団結し、戦争をやることでしか支配を継続する道がなくなった岸田政権とこの新自由主義の社会体制そのものを打ち倒そう。

最後にあらためて、勝連分屯地への地対艦ミサイル配備の中止を強く要請します。

以上